

社会科学習指導案
大単元名「個人の尊重と日本国憲法」
小単元名「人権と共生社会」〔学指要領：C(1)、ア(7)、イ(7)〕

令和〇年〇月〇日(〇) 第〇校時 〇〇〇〇教室
 〇〇立〇中学校 3年〇組 〇名 指導者 〇〇 〇〇

I 単元の構想

1 単元の目標及び生徒の実態

	目 標	生徒の実態
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> 人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解することができる。 基本的人権に関する諸資料から情報を効果的に調べ、まとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 現代社会の見方・考え方について、その基礎となる枠組みとして、対立と合意、効率と公正などを理解している。 対立と合意、効率と公正に着目して課題解決する場面で、諸資料から課題解決に必要な情報を選んで読み取れている。
思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察し、表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 現代社会の見方・考え方を働かせる場面では、対立と合意、効率と公正の視点を生かして考えをまとめることができる生徒は多いが、多面的・多角的に考察せずに、特定の視点に偏る生徒もいる。
学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> 人間の尊重についての考え方や日本国憲法の基本的原則などについて、現代社会に見られる課題に関心を高め、その解決に参画しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 効率と公正に着目して互いの考えを話し合う場面では、合意に導くために、意欲的に考えを伝え合っている。 現代社会に見られる課題と日本国憲法の条文とのつながりに対する関心が低い。

2 評価規準

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 〇人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解している。 〇基本的人権に関する諸資料から現代の社会的事象に関する情報を効果的に調べ、まとめている。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 〇対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察し、表現している。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 〇人間の尊重についての考え方や日本国憲法の基本的原則などについて、現代社会に見られる課題に関心を高め、その解決に参画しようとしている。

3 指導及び評価の計画(全8時間：本時第6時)

※指導に生かす評価○、評定に用いる評価●

時	学習活動	知	思	態
前単元末	<p>大単元の課題 日本国憲法が保障する権利を守るために、私たちはどのように社会に関わるべきか。</p> <p>・基本的人権の尊重に関わる憲法の条文を知り、小単元の課題と学習計画を立てる。</p> <p>小単元の課題 どうすれば私たちは「基本的人権の尊重」を実現することができるのか。</p>			○
1	<ul style="list-style-type: none"> 平等権に関する憲法の条文について、我が国に残る各種差別の歴史や現状、解消に向けた努力を調べる。 	○		
2	<ul style="list-style-type: none"> 共生社会の実現に向けて取り組む世界の主要国と我が国の状況について、男女平等に関する事例を基に、立場を明確にして話し合う。 		○	○
3	<ul style="list-style-type: none"> 自由権に関する憲法の条文について、自分にとって必要な自由の種類や法による自由権保障の意義を考える。 	○		
4	<ul style="list-style-type: none"> 社会権に関する憲法の条文について、生活保護に関する事例を基に、「健康で文化的な最低限度の生活」を送るために必要なものを話し合う。 		○	
5	<ul style="list-style-type: none"> 参政権や請求権に関する憲法の条文について、裁判を受ける権利に関する事例を基に、これらの権利保障の意義を考える。 	○		
6	<ul style="list-style-type: none"> 公共の福祉に関する憲法の条文について、バイパス道路の開通に関する事例を基に、権利と権利が衝突した時の解決方法を話し合う。 		●	
7	<ul style="list-style-type: none"> 国民の義務に関する憲法の条文について、納税に関する事例を基に、これらの義務を定める意義を考える。 	●		
8	<ul style="list-style-type: none"> これまでに学んだことを整理し、小単元の課題の答えをまとめる。 	●		●

II 本時の学習（6／8）

1 ねらい 公共の福祉に関する憲法の条文について、バイパス道路の開通に関する事例を基に、権利と権利が衝突した時の解決方法を話し合うことを通して、公共の福祉には、憲法で定められた自由や権利の衝突を公平に調整する役割があることを理解できるようにする。

2 展 開

<p>主な学習活動 予想される生徒の意識〔S〕</p>	<p>○指導上の留意点 ◆評価項目（観点）</p>
<p>1 前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。 (5分) S：憲法で自由や権利を保障しているのに、なぜ権利の制限が認められてしまうのだろう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><めあて> 権利と権利が衝突したら、どのように解決したらよいか。</p> </div>	<p>○公共の福祉の役割に問題意識を持てるよう、学習計画表と憲法12条、13条を提示し、既習の基本的な人権の条文との比較を促す。 ○憲法の権利保障の下でも、権利の制限が認められる場合が日常生活にあることを捉えられるよう、経済活動の自由と財産権の衝突に関する事例としてバイパス道路開通による立ち退きを提示する。</p>
<p>2 バイパス道路の開通に関する事例について、それぞれの立場からの意見を基に、権利と権利が衝突したときの解決方法について考える。(25分) S：○○地域に暮らす人々には「災害にも強い道路網の確保」の面で、他地域に暮らす人々には「物流」「観光」の面でメリットがある。あらゆる人の利益につながっているから、私は開通することで解決に向かうと思う。 S：○○町周辺で商売する人は、「顧客の流出」を懸念している。経済活動の自由が奪われ、財産権にも関わる問題だから、その人たちのことを考えると、やはり開通しないと考える人もいるのだな。</p>	<p>○権利と権利の衝突を多面的・多角的に考察できるよう、開通に肯定的・否定的双方の住民の意見が記された資料を提示し、読み取った情報を基に自らの考えとその理由を記述するよう促す。 ○自らの考えとその理由の根拠を明確にできるよう、双方の住民の意見とその理由となる背景に着目して資料を読み取るよう助言する。 ○多様な情報から自分の考えを繰り返し検討できるよう、自分の考えを位置付けて可視化できる座標軸とその位置付けの理由を記述できる学習カードを学習用端末に用意し、任意の友達と互いの考えとその理由を伝え合う時間を保障する。</p>
<p>3 学級全体で、権利と権利が衝突した時の解決方法について話し合う。(10分) S：バイパス道路の開通が社会全体の利益を考えたことであっても、別の誰かの権利を守るために自分の権利を我慢した人がいるわけだね。 S：友達が言うように、「公共の福祉」という言葉を盾にして、少数派が多数派の利益のために我慢を強いられていることは変わらないな。 S：権利の制限に対しては補償や配慮が必要だね。特に、資料のリンゴ農家は何十年もかけて木を育ててきた畑を失うわけだから、単に代替地といっても保障は相当難しいだろうな。 S：社会全体の利益のためと言っても、むやみに自由や権利を制限することがあってはならないな。</p>	<p>○権利と権利の衝突が合意に至る過程で、権利が制限され、不公平さを感じる人がいることに着目できるよう、本事例における権利と権利の衝突の具体について問いかける。 ○公共の福祉により権利を制限する際の配慮を考えられるよう、立ち退き補償に関する資料を提示し、双方の納得のいく解決方法を問いかける。 【別紙参照】 ○社会全体の利益を実現する過程を視覚的に捉えられるよう、共有した意見を構造化して板書する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆評価項目（思●） 学習カードの記述内容から、「憲法で定められた自由や権利の衝突を公平に調整する役割について記述しているか」を評価する。</p> </div>
<p>4 本時のまとめをし、学習の振り返りをする。(10分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><まとめ> 社会全体の利益を考え、補償などで公平になるように調整して解決する。しかし、公共の福祉によって簡単に権利を制限してはならない。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><振り返り> S：日本国憲法の下では個人が尊重されるが、個人の権利と権利が衝突し、社会全体の利益を優先しなければならないときもある。誰かの権利が制限されるということは、誰かの権利が保障されるということだと考え、それぞれの権利を尊重していきたいと思う。</p> </div>	<p>○次時の学習への見通しを持てるよう、振り返りシートを提示し、次時の追究内容を問いかける。 ○本時のめあてを意識した振り返りができるよう、「授業を通して考えたこと」の視点を提示する。 ○学習の深まりを実感できるよう、振り返りを共有し、取組のよさや考えの深まりを称賛する。</p>

【別紙】

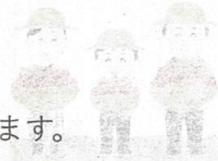
○立ち退き補償に関する資料



A町でりんご園を営むSさんの話

バイパスの工事が決まり、さびしさしかありません。生まれたときから暮らしてきた場所を離れなければならないなんて、考えもしませんでした。りんご園を営んでいますが、家も畑も立ち退くことになりました。今までお世話になったお客さんのことを考えると、申し訳ない気持ちです。立ち退きに関して補償があるということで、我が家は納得していますが、他の人たちはどう考えているのか気になります。

バイパス開通に関する補償



バイパスの建設予定地には25世帯の住民がいます。

○住宅のみ（20世帯）

→住宅と宅地などを査定し、平均2000万円の補償を予定しています。

○住宅と農地（5世帯）

→住宅と宅地、農地、農家としての収益の損失分などを査定し、最大8000万円の補償を予定しています。